

まず自己紹介をお願いします。

(佐藤)



新潟大学大学院自然科学研究科1年の小林拓実です。出身は栃木県です。ものづくりや理科が好きだったので工学部に入りました。今は大学院に進学して研究をしています。

大学生活で自分を 変えたできごとは 何ですか？(福野)



3年生の時に経験したこと全部かな。自分の考え方が大きく変わりました。学部の勉強をものすごくしたし、中越沖地震の災害復旧支援活動もそうだし。内野小学校の桜を守る活動もそうですね。

桜を守る活動は どういう活動ですか？

(泉)



戦中・戦後の頃の内野小学校って校庭に何もなくて、「それは殺風景で寂しい」ということで当時の児童や先生たちがソメイヨシノを植え始めたのです。その活動から昭和57年に『愛桜会』という団体が発足し、積極的に桜の世話をしていました。そして後に、「桜を色んな人にも見て欲しい」と思い、校庭を開放して花見ができるよう小学校側に求めたのです。学校側は、当初は校庭を開放することによってゴミが出ることや騒音問題などを懸念する理由で反対していました。でも『愛桜会』が花見のパトロールをし、花見終了後にゴミ拾いをするを約束に校庭の開放が認められました。私もお手伝いとして、愛桜会の方と一緒に夜間や早朝のゴミ拾いを行いました。他にも、会場のパトロールやトイレ掃除もあり、花見期間中は忙しかったですね。ちなみに、この作業は『愛桜会』の方3~4名と学生が2~3名の、計6~7人で行っています。

自然科学研究科1年 (H22年3月現在)

小林 拓実(コバヤシタクミ)

栃木県出身。2007年に発生した中越沖地震・他多数のボランティアに参加。学部2年生の時、内野小学校の桜に関わりを持つ。以後、新大生に対する花見の仲介に携わる。

学生Interview!! 自分の居場所

このコーナーでは、新大で今輝いている学生に取材をして、その素顔に迫っていきます！
第3回目は、内野小学校の桜の保存に力を入れている地域の方々との交流を深め、ボランティア活動に熱心に取り組む“輝人(キラット)”です☆
※輝人=新大広報学生編集スタッフが考える「輝いている人」のこと

小林さんが『愛桜会』のお手伝いを しようと思ったきっかけは何ですか？

(佐藤)

内野小学校での花見において、学生は楽しむだけで花見に対するマナーが守れていないということを知ったことです。そして、愛桜会の方々の自分たちの誇りや桜を自分たちで守るところに共鳴しました。

現在の問題点はありますか？

(福野)

あります。『愛桜会』の方々も80歳を超え、人数が少なくなり活動を継続するの

が困難な状態です。一人でも多くの学生に花見を支えている『愛桜会』の現状を理解して、学生の花見のマナー意識が高まってほしいと思っています。現状の問題を「知らない」というのが、一番の問題です。

やはり今でも花見のマナーは悪い のでしょうか？(佐藤)

私の知る限り、「良い」とは断言できないと思います。タバコのポイ捨て、指定外のゴミステーションや近隣コンビニのゴミ箱にゴミを捨てて帰るということも、しばしば見聞きます。

具体的に今、小林さんはどういう活動を されていますか。(佐藤)

『愛桜会』の活動継続に負担が増えてきているということを学生に知らせ、また花見のマナーに対する意識を喚起させるため、ポスターを作ったりピラを配ったりしています。また、学生のパトロールへの参加も呼びかけています。

最後に読者に対してメッセージを どうぞ。(福野)

いま当たり前にあると思っているものが、今後ずっと、何をせざるも当然に続くとは思って欲しくありません。自分に必要なものも、自分で守る努力をしないとどんどんなくなってしまう。…抽象的ですがわかりにく

いかかもしれませんが、そういうことを伝えたいです。

ありがとうございました。

(学生編集スタッフ一同)



愛桜会の方と



内野小学校の桜

大学生生活の 思い出ベスト



第1位

中越沖地震での災害復旧支援

人間一人で頑張っても限界があるなというのをいやというほど知らされました。メディアの報道以外で、もっと周りを見なければいけないものがあるということも体験しました。

第2位

「愛桜会」との出会い

「自分の大事なものは自分で守れ」という話を聞いた後で、実際に地域を守る活動のお手伝いできたのはすごくいい経験になったと思います。

第3位

中越地震の復興支援

初めて「自分の大事なものは自分で守れ」って聞いたのは中越地震の復興支援の時でした。地域の魅力を守ること自分達も守られていることに気づいたのは大きかったな。